

生きがい情報士通信

Vol.14 2008.11

発行／(財)健康・生きがい開発財団

<http://www.ikigai-inf.com>

Contents

1. アラカイネット特集
2. 健康生きがいづくりアドバイザーから
3. 生きがい情報士の活動事例
4. 財団認定講師の紹介
5. 20年度授業新テキストでスタート
6. お知らせ／これからの予定

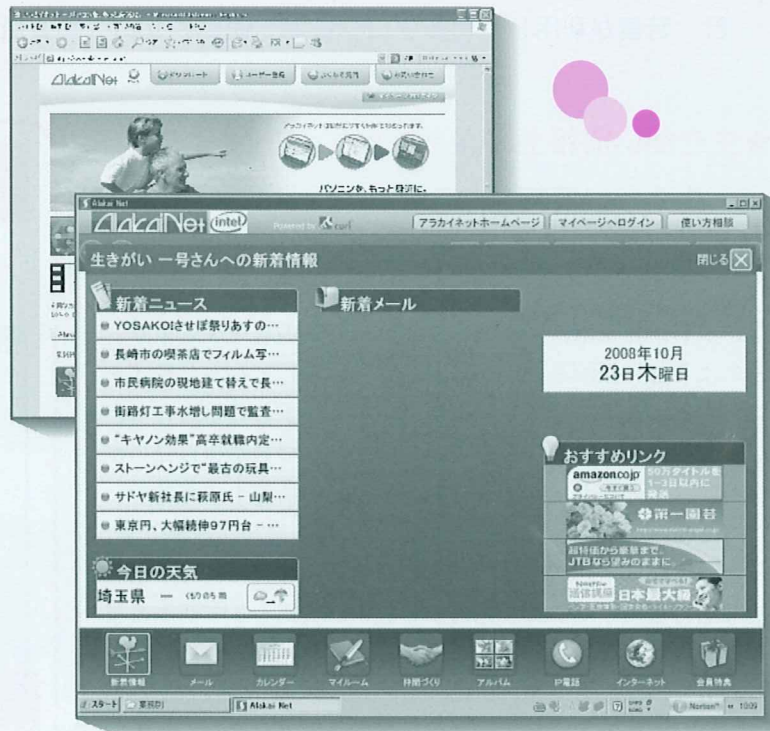
インテルが提供するインターネット・サービス

アラカイネット

今年の2月から
生きがい情報士がAlakai Netの
使い方相談を担当しました。

まさにパソコンを駆使しての熟年期支援です。Alakai Netは、「シニア世代に向けた安全・安心なユーザーインターフェイスの提供」です。超高齢社会になりつつある日本の社会を、若者が待ちわびるような明るい楽しい社会にするためアラカイネットの普及は欠かせません。果たすべき役割は、高齢者の自立の支援です。そのために「生きがいづくり」のための情報提供は欠かせません。その前提となる情報収集力向上の支援も必要となります。このためのアイテムとしてAlakai Netを位置づけ、使い方がスムーズになれば自立支援のための強力なアイテムになります。新しいネットワークなので自分たちだけのネットワーク作りが初期段階からできます。

- TV電話（ヘッドホンマイクセットの購入が必要）
が無料で使えるので親子、親戚、友人等と顔を見ながら Skypeが出来ます。
特に遠隔地（海外や北海道、九州等）同士で音と映像の情報交換が出来るので喜ばれています。
- 3人以上でのSkype機能を使ってTV会議が出来ます。



- 自宅に居ながら、趣味仲間や学習仲間作りが出来ます。
Alakai Netを通して熟年期の精神的、身体的な健康の維持・増進とセカンドライフの生きがい創造を支援することを目的として、熟年期社会参加、就労、健康、余暇、経済、医療、福祉等の領域に関する専門知識、相談援助のための専門技術および必要な支援情報をパソコン技術等を使って提供します。
- その他必要に応じて関連機関の紹介やライフプラン作成等の支援を行います。



★Alakai Netて何？



1. パソコンをワンクリックで起動し、一つの画面で Gメールやカレンダー・日記（ブログ）・仲間作り・スカイプ等が楽しめる。
2. 自分の日記（ブログ）を公開して友達の輪が広がる。・・・おしゃべり感覚で使えるという意識改革が必要。
3. 「仲間作り」の画面を使って「参加者」を募りグループを作ることができる。
4. Gメールの受信メールが自動的に整理される・・・「件名」を付ければ、その件についての往信履歴が整理させる。
5. 文字が大きく、写真が拡大でき見やすい。
6. 若者が利用しているブログに比べ使いやすい（必要最低限のものしかないのがよい）

★生きがい情報士とAlakai Net

－ 生きがい情報士から －



生きがい情報士は、パソコンを使い、相談内容を聞き取り、どのような支援が必要か「ニード分析」をしてわかりやすく対応することにあります。生きがい情報士の資格をとったばかりの頃、具体的にこの資格が何に役立つのか皆目見当がつかず、どのように活かせるかが生きがい情報士の課題でした。このAlakai Netで使い方相談業務が授業で学んだ「援助技術」を使ってパソコンの苦手な人に自分の情報処理能力を使って情報を発信するという実務として活かしました。また実習先（デイサービス）で見た光景の中で、高齢者の男性が常に人の輪の中に入るのを嫌い、ぼつねんとしている光景が多々見られました。施設でいいプログラムがないか？模索していました。一般的に、女性に比べ男性は会話に加わるのが苦手です。特に地位の高い人は、人との会話を好まない傾向があります。集団ゲームなどに参加せず一日を過ごしている人も多くいました。言われたことのみやっている受動型です。

（団塊の世代があと10年15年後、70歳・75歳になるとしたら・・・）

このような場合このAlakai Netを導入することで、仲間を集い、使い方を職員に聞くなどしてコミュニケーションを図ることができます。

パソコンは、使い方次第で孤の世界を形成しやすく社会問題化になり易くなりますが、福祉施設においては「Alakai Net」を媒体として仲間同士、異世代間のコミュニケーションを図ることができます。

★ 試してみよう ★



Alakai Netをダウンロードしてみよう！



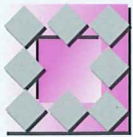
<http://www.alakainet.com/>

アラカイネットは、
ウェブサイト<http://www.alakainet.com/>より
無償でダウンロードすることができます。



Alakai Netの使い方相談を
11月1日からSkypeで生きがい
情報士が担当します。

Alakai Netに関するお問い合わせは、Skype、または相談窓口、財団までご連絡ください。



AlakaiNet

アラカイネット特集3



★熟年期向けパソコン教室の出前

Alakai Netを介したインテル社の職員と生きがい情報士が共同で「パソコン教室」を開催しました。

☆パソコン講習 1

生きがい情報士が勤務する施設利用者対象（障害者を対象とした地域活動センター）、高齢者対象（60歳代から80歳まで）と5月から3回開催しました。地域活動センターでは、パソコンのスキルアップからSkype（テレビ電話）の活用など生活に密着した利用技術の講習でした。Skypeは、“友だちと顔を見ながら話ができてびっくり” “普段利用しているよりも高度な技術を教えてもらいました” という参加者の声が聞かれました。これからパソコンの使い方を練習して就労につながるというですね。



この教室は、受講者の皆さんにインターネットを中心にパソコンライフをより幅広く楽しんでもらおうと開いたものです。当日は、インテルの本社から3名のスタッフさん、さらに健康・生きがい開発財団の「生きがい情報士」の方3名と一緒にサポートして、受講者とマンツーマンでの対話を交えながら、和やかにパソコンライフを楽しみました。参加者の中にはある程度は、操作できるものかねがね疑問を感じていたことや、操作する上でのもどかしさを専門家であるインテルのスタッフさんから丁寧に教えてもらうことができ、「パソコンに対する楽しさが増した！」との声が聞かれました。
(生きがい情報士講師 澤辺さん寄稿)



☆パソコン講習 2

横浜市港南台で高齢者の方たちが70歳から80歳までの高齢者が20名近く参加してパソコン教室を開催しました。普段パソコンを使っている方、初めての方と様々でした。パソコンを使っている方は、質問を受け使い方相談を。初めての方は、G-mailアドレスを取得してメールで情報交換をしたり、Skypeを使ってみたりと楽しい講習でした。Skypeをされた方のお一人に台湾にいるお友達と偶然つながり久しぶりに会話が弾みました。（無料なので料金も気になくて）これから遠方にお住まいのお子さん、お孫さんと楽しいテレビ電話ができます。パソコンを普段のコミュニケーションツールとして使っていただくとよいですね。頑張れ熟年期！！！！

★G-mailグループメールの利用方法

G-mailグループメールができることをご存じでしょうか。お友だち、職場でグループ（共有する人たち）を作り、G-mailで情報交換ができます。グループ登録者だけのサイトなので安全です。またメールなので必要なところは、すぐに※『コ・ピ・ペ』ができます。施設などで働いているとシフトが組まれているため職員同士で利用者さんの状況の把握が難しくなります。そのような時にグループメールが利用できます。各自で気づいたこと、皆さんにお知らせしたいことなどをメールに書くだけでグループ全員に送信されます。またスケジュールサイトを使えばグループの方のスケジュールが同じページで管理ができます。

利用方法は、生きがい情報士が「一目でわかるG-mailグループメールの作り方」をホームページ上にアップします。ぜひご覧になって活用してください。

※コピー・アンド・ペースト（Copy and Paste）とは、文章やデータなどをコピー（複写・複製）し、そのコピーしたものを貼り付け（ペースト）するという操作を表すコンピュータ用語



自己実現の生きがい = 「自己実現の意志」

生きがい情報士へ

健康生きがいづくりアドバイザーから

生きがい情報士は『抽象的かつ多義的な生きがいを理解するために、生きがいを「自己実現の意志」としてとらえ、これを一人称関係、二人称関係、三人称関係に関連させて整理するとわかりやすくなる』と総論のなかで書かれています。その具体的な例として健康生きがいづくりアドバイザーが「I k i g a i」（アドバイザー向け通信）に掲載された記事を紹介し、生きがい情報士として熟年期の生きがいを理解してください。

●● プロフィール ●●

南 敏泰（みなみ としやす）

健康生きがいづくりアドバイザー（25回生） 長崎県在住
75歳 地方銀行退職 自動車販売の営業（現在）



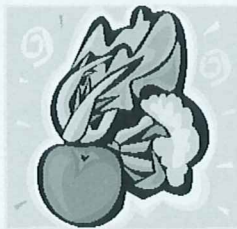
はじめに

「ショウガイ教育を受けますか？」人事部から電話があった。長崎へ帰れるチャンスでもあり「受けます」と返事をした。「ショウガイ」教育を「渉外」教育と思いましたが、案内文が来て、一生涯の「生涯」教育だったわけである。研修会場へ行くと皆の表情が暗い。なぜ暗くならなければならないのか？銀行はお金をかけて外部から講師を招き、私達の将来のために研修をしてくれているのに、と思った。皆の思いは「いよいよそういう時（カタタタキ）が来たのだなあ」という生きがいの喪失体験を感じたのであろう。これではいかん「どげんかせんといかん」と思い“健康生きがいづくりアドバイザー”の資格を取ろうと思った。同じ釜の飯を食った仲間が同じ目線で話をするのであれば雰囲気は違って来るのではないだろうか。

私の生きがい

☆一人称の生きがい

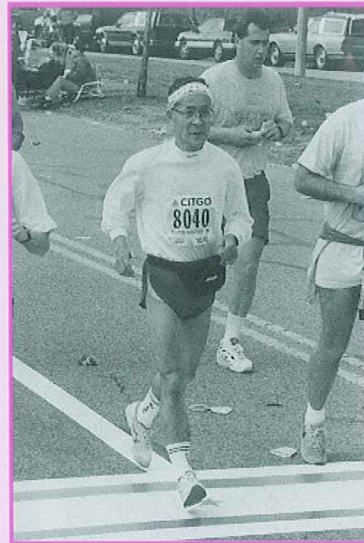
私の一人称の生きがいといえば家庭菜園を第一にあげる。菜園づくりの大きなメリットは有機栽培の野菜から得られる元気がある。安全、安心というだけでなく、太陽や土という自然のエネルギーを実感する元気だ。ミネラル豊富で美味。「昔のトマト（青臭い）を食べたい」という思いが家庭菜園のはじまりである。



★二人称の生きがい

二人称の生きがいは、水泳である。45歳からはじめたジョギングは60歳でポストンマラソンに出場を果たし、水泳に転向した。

ポストンマラソンの思い出に触れてみたい。「還暦を迎えた時にフルマラソンに出場する」ということを公表していた。マラソンの名門コースであるポストンを選んだ。毎年4月の第3月曜日に行われる。1994年4月18日。スタートは、ホプキントンという郊外の田舎町。ポストン周辺はマラソン一色に染ま



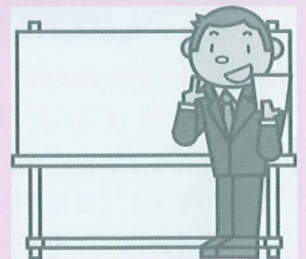
り、うらかな春の一日をピクニック気分でもラソン観戦に興じる家族連れや恋人たちが、ボランティアで42.195Kmの沿道を埋めつくす。心臓破りの丘（32Km地点）にさしかかるところで思いがけなく「T o s h i y a s u M i n a m i !」の声援を受ける。新聞に出ているゼッケンで私の名前を知ったのだろう。約34,000人の出場者の中で日本人は0.1%に過ぎない。感動した私は、この声援のお返しをしたいと思います。

えながら走った。給水は、ボランティアが手にするコップの水である。お母さんと一緒にコップをかかげる3歳位の青い目の女の子が私の目にとまった。私はしゃがみこんでその女の子の水をもらった。はにかんでお母さんの顔を見た女の子は、変な東洋人が自分の水をもらってくれたことを覚えていてくれるだろうか。私には良い思い出となった。ポストンマラソンを良いタイムで完走し、次に家内と一緒に水泳にチャレンジすることにしたのである。水泳をはじめて14年。全日本マスターズ水泳大会に出場するまでになった。得意な種目は、バタフライとクロール。あと5年、80歳まではバタフライで出場することを目標に掲げている。



☆三人称の生きがい

三人称の生きがいは、健康生きがいづくりアドバイザーとしてのボランティア活動である。公民館、すこやか長寿大学校、年金受給者協会、などでの講演など。市民講座開催は20回を超える。常時150名～180名の市民が2時間の講演に熱中する。今年は企業訪問を活動方針として、アドバイザー養成講座のPRに当たりたい。日本人の多くは、他のどの国民にもまして、自分の仕事に誇りと生きがいを感じており、それだけに、退職するととたんに生きる目的も意味もすべて失ってしまったかのように思いこむ傾向にあるという。第三の人生こそ、豊富な余暇を存分に活かして、自分には、まだまだ新しい可能性があることを発見すべき時なのである。退職してからでは遅いのである。50歳代からの助走が必要。団塊の世代が退職して来る今こそ、健康生きがいづくりアドバイザーが活躍すべき時だと思う。





生きがい情報士の
活動事例

足裏マッサージ講習会



地域活動・相談支援センターかさい 酒井 真紀子さん(生きがい情報士)



私は普段、江戸川区で障害者の方々の支援を主に行っている、「地域活動・相談支援センターかさい」で指導員として働いています。生きがい情報士の資格を取って、学校を卒業した後、

すぐの就職先となるため、生きがい情報士としても、センターの職員としても、今回が初のイベント企画・運営のお仕事となりました。

今回行ったイベントは「足裏マッサージ講習会」の開催です。すでに今年の1月に一度、実施をしていますが、今回7月に2回目として新規申し込みを受け、新たに講習会を行いました。講師は前回と同じく、篠原広美さんで、物腰の柔らかい素敵なお方でした。

その企画・運営の中で多くの事を学びましたが、今回、情報士の勉強をしていて役立ったと感じた事は、企画書の作成方法、広報の方法、アンケートによるニーズ調査方法などについてです。特に広報の利用やその結果などに関しては、新たな気づきをたくさん得ることができました。

今回、広報は江戸川区の区報、「広報えどがわ」や、区内の地域コミュニティ誌である「葛西新聞」を利用しました。初めて広告を掲載する側に立ってみて驚いたのは、江戸川区民の方々が区報やコミュニティ誌をととてもよく利用していることです。区

民の方々から寄せられた講習会への申し込み・問い合わせの反応は非常に早く、即日にほとんど枠が埋まってしまい、キャンセル待ちが多数出る程でした。情報士の授業では、地域コミュニティ誌はなかなか住民に読まれづらいので広報としての効果は薄い、と習ったように思います。しかしこの地域の方々の反応を見ていると、江戸川区の広報への関心が高いこと、なおかつ足裏マッサージに興味を持っている方々が非常に多くなってきていることが言えるのではないかと感じました。

また、講習会を行う前は、全く知らない方々同士が2人一組でマッサージを行うことに抵抗があるのではないかとというイメージもありましたが、マッサージを行っていくうちにお互いが少しずつ打ち解けてゆき、会話も弾み、マッサージそのものがコミュニケーションの一つとして成り立っていることに驚きを感じる場面もありました。こういった形で参加者の方々の楽しんでいる姿を目にすると、「生きがい」を見つける一つの手段に、「学習の場の提供」があると授業で学んだことを思い出します。講習会を通して、足裏マッサージで心と身体を癒す効果を学んでいただくことで、ただ単にマッサージを覚えていただくだけでなく、同じ地域の中で暮らす方々同士の交流や、ご本人の生きがい探し、社会参加への貢献にも役立っているのではないかと思います。

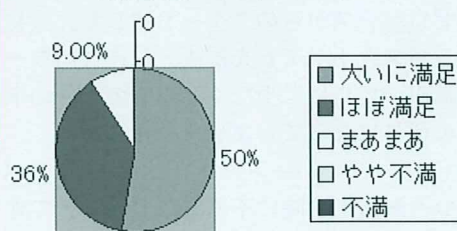
今回、このイベントの企画・運営に携わることができ、地域住民の方々にセンターかさいを知っていただくだけでなく、私自身も様々な方々と交流できたことが、大きな収穫となりました。今後、また新たなイベントを行っていきながら、情報士として多くの学びや気づきを得たいと思います。

足裏マッサージ講習会 (10月13日) アンケート結果

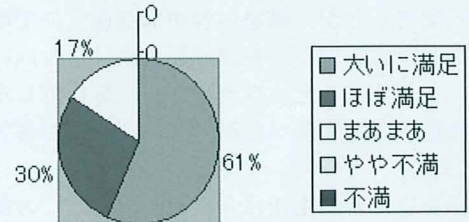
■返送率
53% (44名中)

※ほとんどの参加者の方に満足していただくことができた。
※参加者の方がセンター主催の学習会(利用者さんを対象としたプログラム)に参加していただけたことがわかった。

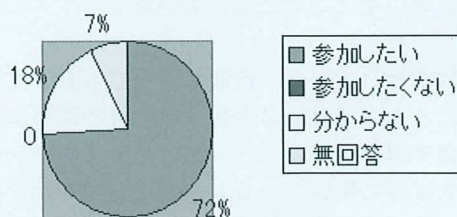
講習会の内容(AM)



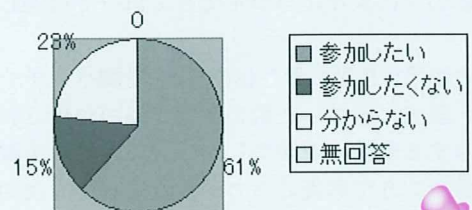
講習会の内容(PM)



学習会の開催(AM)



学習会の開催(PM)





生きがい情報士財団認定講師紹介 ②



押見 ミイ子さん

プロフィール

2007年

埼玉福祉専門学校社会福祉科卒業

2007年

生きがい情報士・生きがい情報士講師

資格取得

専門分野：経済金融

■新人講師

今回初めて、東京福祉専門学校の「生きがい情報士」の講師として「経済金融」「ライフプラン技術」を担当しました。

それというのも、私は30年間郵政の現場で禄を食み、その後専門学校で3年間社会福祉を学び「生きがい情報士」になったことがご縁でありましょう。

確かに人より少しだけ金融について知識はありましたが、だいぶ錆びついておりました。しかしお引き受けた以上は学生にとって「社会に出て役立つ知識」を提供したく、昔取得した「フィナンシャルアドバイザー」1・2級の教科書を引っ張り出し、本を買い、最後は新聞記事を引用することに決めました。折しも世界の金融市場は大揺れ、メラミン問題等もあり・・・世の中のあらゆるものが経済に関係していると捉えられる良い機会でした。ただそこを上手く伝達できたかは自分の器量にかかわり、未熟さは否めません。昔のこぼれ話をポケットに詰め込んだ割には出さず仕舞でした。チャンネル合わせの難しさも痛感しています。(市場原理で用いたのは北海道の生チョコでなく生キャラメルでした。お詫びをいたします。)

ところで、9月29日の朝日新聞の朝刊に茂木健一郎さんのコラムを見つけました。『日本人は、頭で理解する「入力」学習は得意だが、それを文章やスピーチなどの表現にする「出力」学習が下手だという。・・・初めて「出力」するときはずたなくて当たり前だが、』とありました。この文面で勇気をもらいました。

また、生きがい情報士としてのアドバイスは、私自身にもいえますが、これからの人生を深く思い、自身の人生をデザインしてプランを立て実行、練り直しの連続のように思います。それも人生90年プラン！経済基盤も忘れなく！・・・ということでしょうか？

■生きがい情報士と専門学校講師とのコラボレーション

5月まで健康・生きがい開発財団でパソコンを使って情報士の有志によるAlaka iNet相談窓口の仕事をしていました。ひょんなことで専門学校の講師をやらないかとのお誘いがあり、気軽な気持ちで引き受けましたが、その後が大変でした。地域社会ではボランティアを兼ねて講師活動を経験したものの、真面目な講座を担当するのはサラリーマン時代以来で、それから年数も経っており、感が戻るまでの間は準備に大わらわの毎日でした。毎週一回90分2コマの授業でしたが、講座内容が毎回違うので準備もゼロベースからのスタートでした。最初に自分のレッスンプランを作成し、次は学生向けのシラバスと小テストを作成、最後にパワーポイントを作成するというサイクルの毎日でした。一講座の担当には少なくともその十倍の準備期間を要すると先輩から聞いていましたがまさにその通りになってしまいました。

さて本番を迎え若い生徒（介護士のたまご）の前に立つと緊張と同時に不思議に元気ができました。学校側から教科書に沿った講義も大切だが、現実の社会で起こっている現象や講師自身の体験を語って欲しいとの要望もあり、生活に役立つ法律・社会参加・趣味と余暇等の講座を担当するたびに葬儀・相続・社会参加としてのボランティア活動など、人生60有余年の体験が頭の中に次々に浮かんできて自分では楽しい講義が出来たことと思っています。

今回の担当はII部の学生相手です。昼間ベンチャーの代表として働き、夜勉強に来ている学生もいて、現実に基づいた鋭い質問が幾つか出されました。その様な時は生徒全員目と耳が講師に集中する緊張の瞬間でした。質問内容が実際の社会で起こっていることだけに自然にファイブが湧いてきて講義にも力が入りました。夜間の学生は昼に働いている人が多く勉強に対する強い意欲を感じました。今回の体験は自分にとって自分の人生を整理する節目ともなり良い勉強の機会になったことと思っています。



澤辺 高橋さん

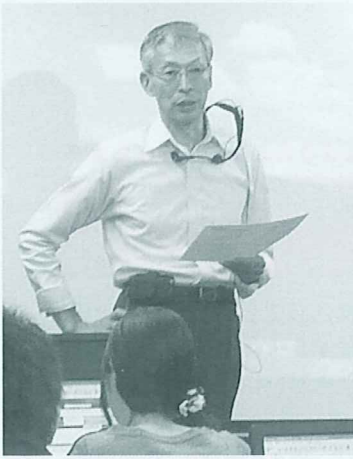
プロフィール

健康生きがいづくりアドバイザー

1999年

生きがい情報士講師資格取得

専門分野：就労・起業、余暇・趣味・生涯学習、社会参加など



宮坂 昇さん

プロフィール

2008年

生きがい情報士・生きがい情報士講師

資格取得

専門分野：就労・起業・余暇・趣味・

生涯学習、社会参加など

■講師をしてみたの感想

私は、今年の5月に長年勤務したパソコンメーカーを定年退職しました。パソコンを駆使して熟年期支援をする「生きがい情報士」に関心を持ち“生きがい情報士講師”の仲間入りをしたのです。そして退職後の5月から9月までは年金の手続き、再就職講座（ハローワーク主催）などに忙しくしていました。まさに団塊の世代の当事者です。

10月から生きがい情報士授業をデビューしました。今までの仕事とは全く違う“教える”ということは、90分授業以上の準備が必要だと感じます。テキストと格闘しながらコマシラバスを作成しています。学生に楽しく理解してもらうためにと思って準備しているのです。また今生きがい情報士の授業なので定年退職後の経験を授業の中に織り交ぜながら話をできることがうれしく思います（一番の熟年期支援の最新情報と言えますね）。

学生の皆さんは、素直で明るく元気です。新米講師を応援しながらの授業となっています。ありがとうございます。学生の中には現場経験のある方が多いので学生の経験談を引き出せるような授業ができるようになればと思います。（回数を重ねていってからです）

パソコン授業は、前職とつながっているので比較的余裕を持ってできます。パソコンの前に立つと教室授業より落ち着く自分を感じます。長年培われた生活習慣でしょうか。これからの高齢社会で生きがいを持って健康に生活をするためには、生きがい情報士が支援者に必要な情報を提供できることだと思います。学生さんが情報士として少しでもパソコンで情報検索ができるようになってもらえるとよいと思います。

今回の専門学校の授業は、それぞれの講師が専門分野を担当するため講師同士のコミュニケーションが必要になると思います。自分のやる授業内容とほかの方とのつながりを考える必要があります。そのために講師のグループサイト（G-mailグループ）をもっと活用し、コマシラバス、小テスト、講師のミニ感想等を掲載し、共有して一連づけた授業にしていきたいと思っています。

20年度授業新テキストでスタート

生きがい情報士のテキストが改訂され新テキストで4月より授業がスタートしました。テキスト項目も改訂されました。

旧テキスト		新テキスト	
	項目		項目
総論	健康・生きがいづくり総論	総論	健康・生きがいづくり総論
核カ リキ ユラ ムI	社会参加	核カ リ キ ユ ラ ム	健康管理
	就労		余暇・趣味・生涯学習
	健康づくり		社会参加
	余暇		就労・起業
核カ リキ ユラ ムII	経済金融総論		ライフプランと経済金融
	健康相談		福祉・生活支援
	福祉相談		(資料) 熟年期支援に必要な法律知識
技 術	コンピューター技術	技 術	ライフプラン技術
	相談援助技術		仲間作り援助技術
	集団参加援助技術		情報検索技術(ネットワーク技術I)
	地域参加援助技術		広報技術(ネットワーク技術II)
	調査・広報技術		
	イベント技術		
	ライフプラン技術		
	ボランティア実習		
見 学 実 習	就労斡旋施設見学	見 学 実 習	就労斡旋施設見学
	健康増進施設見学		健康増進施設見学
	余暇関連施設見学		余暇関連施設見学
	福祉施設見学		福祉施設見学

■特徴 重複する内容をまとめました。

項目がシンプルになりました。

学生が就職後も使えるような内容に

(データベースをUSBメモリーに保存するなど)



団塊の世代が65歳以上に達する2015年を目前にし、さらに10年後の2025年には75歳以上の後期高齢者数が2,000万人を超えることが見込まれています。認知症や医療ニーズの高い重度のものが増加するとともに、成年後見や障害者の就労支援など、国民の福祉・介護ニーズはより多様化・高度化してきている状況にあり、これらのニーズに的確に対応できる質の高い人材を安定的に確保していくことは必要となり、このような状況に的確に対応できる人材を養成するための改訂です。生きがい情報士資格は、これらの社会情勢を踏まえて10年前から中高年者の支援をする人材として育成されてきました。専門職+α資格としては、まさにこれからより必要となる資格と言えます。

生きがい情報士は、2008年3月現在全国に7,802名認定されています。生きがい情報士としての活動事例がわからないという声が多くあります。生きがい情報士通信などを通じて色々な生きがい情報士の活動報告を掲載いたしますので7,802名の生きがい情報士の皆さん生きがい情報士としての活動の参考にしてください。そして生きがい情報士の皆様からの活動報告をお待ちしています。

今年の4月から財団が3学科の学校と契約して「生きがい授業」を担当することになりました。各講師が得意分野を担当します。ご自分の事例等を入れて学生と楽しく授業を行っています。

講師の出前をします

実施講座検証事業(財団法人長寿社会開発センター助成事業)で健康生きがいづくりアドバイザーの講師を派遣します。生きがい情報士のみなさんの職場で地域の方、ご利用者さんを集めて講座を開催しませんか?講師謝金、交通費、会場費(上限あり)は財団負担。詳細については、財団までお問い合わせください。

問い合わせ先

(財)健康・生きがい開発財団 情報士担当 渡辺まで

TEL:03-3818-1451 FAX:03-3818-3725 e-mail watanabe@z.email.ne.jp



健康・生きがい開発財団からのお知らせ

生きがい情報士講師養成研修会のご案内

生きがい情報士登録者の方を対象に3日間の養成研修会を行い、資格審査試験をクリアした方を「財団認定登録講師」として認定し、生きがい情報士の養成に尽力いただくためのものです。

【日程】

平成21年3月20日(祝)～22日(日)

※詳しいスケジュールはあらためてご案内します。

【会場】

東京医療専門学校 東京都江戸川区東葛西6-5-12
東京メトロ東西線「葛西駅」より徒歩3分

【実施方法】

講義・演習形式による研修
資格審査試験(知識問題・演習問題)

【受講資格】

パソコンの基本操作が出来ること

【対象】

生きがい情報士登録者・指定養成校主任教員・生きがいづくりアドバイザー登録者・指定養成校学校長推薦者

【受講費用】

96,000円(テキスト代、受験料を含む)

【受講定員】

20名

【申込方法】

財団までご連絡下さい。受講申込書をお送りします。

【申込締切】

平成21年2月27日(金)まで

平成20年度 生きがい情報士研究集会 教員研修会のご案内

「生きがい情報士」の研修事業の一環として生きがい情報士研究集会、教員研修会を開催いたします。I部 指定養成校教員研修会及び情報交換会、II部 生きがい情報士の研究集会(レベル向上のための研修会)、III部 指定養成校説明会 3部構成で開催します。研究集会では、福祉関係者の基調講演を予定しております。詳細が決定いたしましたらホームページでご案内をいたします。

また指定養成校の義務になっております主任教員実務研修会を教員研修会として、広く主任教員、生きがい情報士講師の皆様にご案内します。

生きがい情報士、指定養成校の主任教員、講師、学校代表者の皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】

平成21年3月7日(土) 10:00～17:00

第I部 指定養成校教員研修会及び情報交換会

第II部 生きがい情報士研究集会
基調講演(講師交渉中)

第III部 指定養成校説明会

【会場】

ベルエポック美容専門学校 第2校舎
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-57-6

【申込方法】

参加申込書を財団までFAXまたは、郵送。E-mail可

【申込締切】

平成21年2月27日(金)まで



これからの予定

11月上旬 生きがい情報士通信発行

12月 資格審査試験申し込み

1月10日(土) 資格審査試験

1月下旬 認定登録・登録更新手続き開始

2月上旬 生きがい情報士通信発行

2月下旬 認定登録・登録更新締め切り

3月7日(土) 生きがい情報士研究集会 教員研修会

3月20日(祝)～22日(日) 生きがい情報士講師養成研修会



編集後記

今年は、オリンピック、パラリンピックイヤーです。北島康介選手の感動に酔いました。その開催国中国でのメラミン、農薬問題と食の安全が問われました。健康のためにと食生活に気をつけても消費者である私たちが防ぎようのない社会問題です。毎日これは安全かな?生産国は?添加物は?などなど。食欲の秋を謳歌するものにとってさみしい秋になりそうです。誰が目に見えない安全を保証してくれるのでしょうか?健康こそ人生最大の宝物!

生きがい情報士通信 Vol. 14

●発行日 平成20年11月

●編集発行 財団法人 健康・生きがい開発財団

〒112-0002 東京都文京区小石川5-2-2

わかさビル4F

TEL 03-3818-1451 FAX 03-3818-3725

URL <http://www.mmjp.or.jp/ikigai/>

E-Mail ikigai@z.email.ne.jp